



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字NEWS

in TOKUSHIMA ニュース in 徳島

日本赤十字社徳島県支部
徳島市庄町三丁目12番地1
TEL.088-631-6000
FAX.088-631-6100
<https://www.jrc.or.jp/chapter/tokushima/>

Vol.45
2022.7



● イルピンで負傷した人びとに応急的な医療を施す赤十字国際委員会 (ICRC) スタッフ ©ICRC



● モルドバで救援物資の輸送業務を行う日赤救護員



● 街頭募金活動を行う赤十字アマチュア無線奉仕団

世界の人道危機に赤十字が連携 いかなる状況下でも「命と尊厳」を守るために

令和4年2月24日にウクライナ各地で大規模な攻撃が始まってから約4カ月。この間、ウクライナでは1,400万人を超える人々が故郷を追われ、国内外に避難を余儀なくされるとともに、一般市民にも多数の死傷者が発生するなど、人道危機は深刻な状況が続いています。

ウクライナ及び周辺国では、事態発生当初から現地赤十字社及び国際赤十字(赤十字国際委員会及び国際赤十字・赤新月社連盟)が連携して医療支援やこころのケアはもとより、救援物資や衛生物資の配布、生活支援、避難支援、一時避難所の提供、離散家族の再会支援など様々な人道活動を継続して展開。

日本赤十字社でも人道危機で苦しんでいる人々を救うために「人道危機救援金」の募集をはじめ、ウクライナやその周辺国のハンガリー、モルドバ共和国、ポーランドへ支援要員を派遣するなど、国際赤十字の一員として人道危機対応にあたっています。

本県では、徳島県赤十字アマチュア無線奉仕団員が4月9日、徳島駅前での街頭募金活動と合わせて、平和を願い無線通信の後に「ピース(平和)」を付けて通信する平和交信を実施したほか、県民の皆様からウクライナ人道危機に対する様々な思いのこもった救援金が多数寄せられています。

ウクライナ人道危機救援金

皆様の思いのこもった救援金が多数寄せられました。心から御礼申し上げます。

日本赤十字社受付金額 45億5,482万4,180円
(令和4年5月29日時点)

※支援金額 37億円 (令和4年5月31日時点)

徳島県支部受付金額 1,042万8,307円
(令和4年6月14日時点)

本救援金は、本年9月30日まで受付しています。皆様の温かいご支援を引き続き、よろしくお願いいたします。

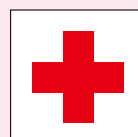
国際人道法とジュネーブ条約

ウクライナでの人道危機発生以来、「国際人道法」という言葉をよく耳にしますが、国際人道法は、武力紛争(戦争)において、負傷したり病気になった兵士、捕虜、そして武器を持たない一般市民の人道的な取り扱いを定めた国際法です。

「国際人道法」という名称の条約は存在せず、赤十字の設立根拠となっている「ジュネーブ条約」を中心とした、さまざまな条約と慣習法の総称が「国際人道法」です。

ジュネーブ条約は、戦場で「苦しむ人を敵味方の区別なく

救護する」ために赤十字の創始者アンリ・デュナンが提案し誕生した条約で、戦闘に参加しない人々(一般市民や衛生部隊、人道支援者等)や、もはや戦闘に直接参加することができない人々(傷病兵、捕虜)を保護する大切な条約です。



赤十字マーク

● 紛争地域等で「赤十字マーク」を掲げている病院や救護員などには、絶対に攻撃を加えてはならないとジュネーブ条約で決められています。



ジュネーブ条約の詳細はこちらから



青少年赤十字(JRC)が創設100周年!

「やさしさ」や「思いやり」あふれる青少年を育成

青少年赤十字とは

青少年赤十字(Junior Red Cross)は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切にし、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的として、学校教育の中で展開しています。

青少年赤十字の誕生

始まりは第一次世界大戦時、カナダやオーストラリアなどの生徒や教員が、戦争で苦しむヨーロッパの人々を励ますために手紙や包帯、慰問品などを、赤十字を通じて届けたことがきっかけで誕生しました。

青少年赤十字が世界に広がる中、日本の青少年赤十字活動は1922年に

誕生。「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つの実践目標と主体性を育むために「気づき」「考え」「実行する」という態度目標を掲げ、教育関係者のご尽力のもと活動は脈々と引き継がれ、2022年5月に創設100周年を迎えました。

徳島県の青少年赤十字活動

徳島県の青少年赤十字活動は、青少年赤十字の指導者で組織される青少年赤十字徳島県指導者協議会が1949年に結成され、同年に小学校12校、中学校7校が青少年赤十字に加盟したことでスタート。現在、幼稚園をはじめ、小・中・高等学校等合わせて319校が青少年赤十字に加盟し、赤十字の人道精神に基づく「やさしさ」や「思いやりの心(人道的価値観)」を育む活動を行っています。

JRC100周年記念

「優しさの作品コンクール」を開催します!

青少年赤十字加盟園の幼稚園児を対象に「絵画」を、加盟小・中・高等学校等の児童・生徒を対象に「ピクトグラム」の作品を募集します。募集期間は7月1日から9月5日まで。
応募方法等詳細は、当支部ホームページをご覧ください。
(<https://www.jrc.or.jp/chapter/tokushima/>)



●JRC創設100周年を記念したケンチョピアでのフラッグキャンペーン



●昭和42年のJRCリーダーシップ・トレーニング・センター



●徳島駅前街頭募金を行う青少年赤十字メンバー

地域ではためく、赤十字懸垂幕! ～藍住町役場への設置は、県内市町村初～

4月28日、藍住町分区の協力を得て、藍住町役場に赤十字懸垂幕を設置。市町村への設置は初めてで、懸垂幕は管内町村のPRに協力しようと東部地区が作製しました。

周辺には大型商業施設等が立地しているため、多くの人々の目に留まることで、赤十字の人道に思いを寄せていただくとともに、活動への理解と協力を呼びかけました。



●人道の象徴・赤十字マークと使命入りの懸垂幕

ハナミズキゾーンの一躍を担って10年! ～発達障がいの方々を支援～

立地場所の小松島市の花にちなみ、「ハナミズキ・プロジェクト」と名付けられ、平成24年に設置された、発達障がいの方の支援に特化した全国初の拠点「徳島県発達障がい者総合支援ゾーン」。

発達障がいの方やそのご家族が、安心して充実した生活が送れるよう、様々な支援がワンストップで受けられるのが特徴で、徳島赤十字ひのみね総合療育センターは医療面を、徳島赤十字乳児院は子育て面での相談支



●子どもたちも参加してくす玉を開き、10周年を祝う

援を担っています。

4月3日に記念式典が開催され、当支部の飯泉嘉門支部長らが、くす玉を開き10周年を祝いました。

徳島赤十字病院 最新のCTで、医療機能向上

～短時間撮影、被ばく量の減少で、負担の少ない検査が可能に～

徳島赤十字病院では本年1月から新しいCT装置「SOMATOM Drive」の運用を開始しました。CTとはX線とコンピューターによる特殊な画像処理を利用し、体の断面像を撮影する装置です。

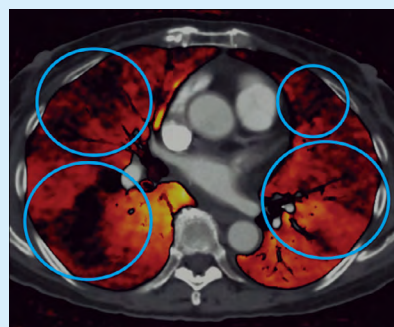
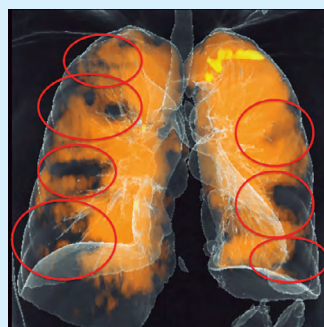
今回導入した装置の特徴として、2種類の異なるX線エネルギーを用いた撮影が挙げられます。これにより、体内の異常を分かりやすくする薬剤である造影剤の位置を確認しやすくなりました(図1)。

さらに、従来のものと比べ短時間での撮影が可能です。写真撮影でいうシャッタースピードを短くすることで、臓器の動きや呼吸などによって生じる



ブレの少ない画像を撮影することができます。

また、特殊なフィルターを利用した技術により、X線による被ばく量が大きく減少し、患者負担の少ない検査が行えるようになりました。今後も新しい



●図1:ヨードマップ画像(造影剤の分布)

CT装置を活用し、個人に応じた適切な撮影を行うことで、質の高い医療の提供を目指します。

寄付者の
横顔

いつも笑顔で赤十字活動を支援！

飯田幸男様 登美子様

「役に立ちたい」という気持ちが私たちの原動力

板野郡松茂町の飯田幸男様・登美子様より、4月に100万円のご寄付をいただきました。幸男様が徳島バスの運転手だった頃、阪神・淡路大震災をきっかけに、会社からの110万km無事故運転の報奨金で始められた寄付も9回目を数えます。

板野郡上板町下六條の米農家に、6人兄弟の3番目として生まれた飯田さん。とにかく活発な少年だったそうです。いじめっ子に立ち向かったり、捨て犬や捨て猫を放っておけない性分は「困っとる様子や苦しんどる姿を見ると、だんだんせこうなってくる」と、80歳を超えた今も変わりません。

ご夫婦で災害時の安否確認や救護情報の通報を行う徳島県赤十字アマチュア無線奉仕団にも所属。寄付に加えて活動に参加することで、赤十字が提唱する『人間のいのちと健康、尊厳を守る』というスローガンへの理解も深まったといいます。「元気なうちは誰かの役に立ちたい」と熱い思いを語っていただきました。



● 仲の良いご夫婦の出会い、幸男様が徳島バスで車掌をしていた頃



● 徳島バス退職の日、登美様が撮影した写真。運転席の幸男様は満面の笑顔

災害は“待ったなし!” 奉仕団や救護員が、万一に備え訓練や研修

教訓から学んだ「栄養」と「笑顔」届ける食事

徳島市地区赤十字奉仕団は、東日本大震災の記憶の風化が進む中、いまだ一度震災から学んだ教訓を振り返るとともに、「食」の支援を図るための炊き出し訓練を3月11日に実施しました。

災害発生初期ではパンやおにぎり、中長期では揚げ物中心の弁当が主となり、食物繊維などが不足することから、栄養バランスに優れた「炊き込みご飯」を調理。いざ災害時には、不足しがちなエネルギーやたんぱく質、ビタミン等の栄養



● 炊き出し訓練の間に災害時の栄養についても学んだ団員

素に加え、団員の「あたたかさ」も提供して支援を行います。

救護員の心構えは“災害に敏感になる”ことから

災害時に被災地で救護活動を担う本年度の救護員70名を対象とした辞令交付式及び研修会を4月9日、徳島赤十字病院で開催。救護員に辞令を交付した当支部の新居啓司事務局長が、「災害時に迅速・的確な救護活動が実施できるよう期待している」と救護員を激励。

研修で救護班の役割や災害時に用いる災害診療記録、こころのケア等について学んだ救護員は、常に災害に敏感になりながら、資機材や心を備え、万一の際、



● 医師や看護師、薬剤師等で構成する救護班

被災者に寄り添った救護活動が行えるよう取り組んで参ります。



● 心肺蘇生訓練を行う児童(三好市立王地小学校)

救急法を通して、命の大切さや思いやりの心を学ぶ

日本赤十字社は、「いかなる状況下でも人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、1926年(大正15年)の衛生講習会の開催以来、いのちを救う方法や健康で安全に暮らすための知識と技術を伝えています。

県内各学校でも子どもたちが青少年赤十字の実践目標「健康・安全」のプログラムの一環として、救急法に取り組んでおり、万

の際に尊いいのちを守る知識や技術を習得するとともに、救急法を通じて、いのちの大切さや思いやり、優しさの心を育んでいます。

本年度から、夏休み前などの重複する学校の講習ニーズに対応するために「オンライン」による救命講習を当支部の取り組みとして新たに導入。この講習を通して、子どもたちのいのちを守る取り組みをサポートしています。

赤十字活動支援費にご協力をお願いします

私たちが直面している新型コロナウイルスへの取り組みをはじめ、台風や地震などの災害に備える人道活動は、皆様からの赤十字活動支援費で成り立っています。この難局を乗り越えるために、皆様のご協力をお願い申し上げます。

● 下の振込用紙(振込手数料は無料、金額は任意)で、お近くの阿波銀行、徳島大正銀行の本店・全支店からお振込み可能です。郵便局からのお振込みをご希望の方は、当支部事務局(TEL.088-631-6000)までご連絡ください。

＋赤十字活動支援費領収証

金額	※				百万				千				円
取りまとめ店		阿波銀行 鮎喰支店											
		徳島大正銀行 加茂名支店											
受取人		日本赤十字社徳島県支部											
住所・氏名	ご依頼人	様											
取扱店		年 月 日											
		銀行 支店											
	(法人)	この領収証記載の金額は法人税法第37条第4項の規定に基づく寄付金に該当します。											
	(個人)	この領収証記載の金額は所得税法第78条第2項第3号の規定に基づく特定寄付金に該当します。											

● (振込人)

＋振込ご案内

金額	※				百万				千				円
取りまとめ店		阿波銀行 鮎喰支店											
		徳島大正銀行 加茂名支店											
受取人		日本赤十字社徳島県支部											
住所・氏名・連絡先	ご依頼人	〒 -	(ふりがな) 様										
		(TEL: - -)										
		赤十字寄付金用											
		上記のとおり払込を取扱いましたからご通知いたします。											
		年 月 日											
		銀行 支店											
		コード番号											

● (取りまとめ店→受取人)

＋普通預金入金票 赤十字寄付金

取及びり口座番号		阿波銀行 鮎喰支店 (普) 0 2 3 3 3 0 4											年 月 日		検印			
金額	※				百万				千				円	内 訳	現金	当座券	記帳	抜者
受取人		徳島市庄町3丁目12-1 にほんせきじゅうじしゃとくしまけんしふ 日本赤十字社徳島県支部																
住所・氏名・連絡先	ご依頼人	〒 -	(ふりがな) 様										出納印					
		(TEL: - -)															

● (取扱店→取りまとめ店)

一 この領収証は大切に保存して下さい。
二 本票をもって日本赤十字社徳島県支部の領収証とさせていただきます。
三 右記取りまとめ店の本支店ご利用の場合は手数料免除となります。



人間を救うのは、人間だ。

日本赤十字社 スローガン

白血病を克服しプロ野球選手へ

過去に白血病を発症し、現在四国アイランドリーグplus 徳島インディゴソックスでプレーしている高島輝一郎選手から「ありがとう」のメッセージをいただきました。

僕は5歳と15歳の頃に急性リンパ性白血病を患い、治療中は何度も輸血で命を助けてもらいました。顔も名前も知らない誰かの温かいやさしさのおかげで、命をつなぐことができ、今こうして何不自由なく野球で夢を追いかけることができます。

僕が幸せに生きられているこの時間は、僕ひとりの力で得られた時間ではないと本当に心から感謝しています。たくさんの方に助けてもらったこの命に感謝して、夢を叶え恩返しできるように頑張っていきたいと思います。

若年層献血者数が減少しています

徳島県における10代～30代の献血者数は年々減少傾向にあり、10年間で約半数にまで減少しています。

しかし、輸血を受ける患者様は年々増加しています。

このまま若い世代の献血者が減っていくと、血液の確保がますます困難になっていく恐れがあります。将来的に安定して患者様に血液をお届けできるように、特に若い世代の方々に献血にご協力いただく必要があります。

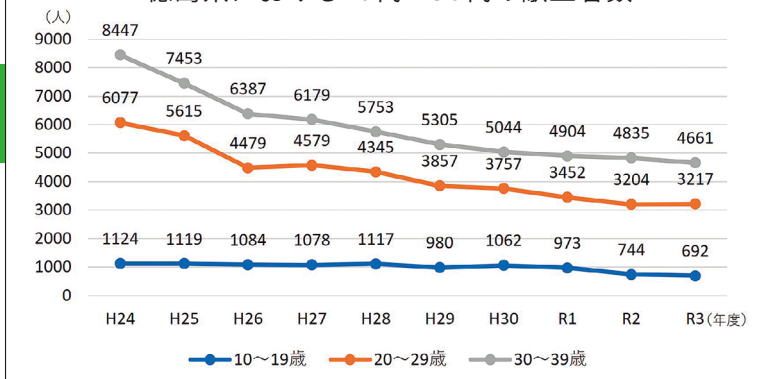
献血には、年齢や体重等様々な基準が設けられています。

また、服薬等により献血をご遠慮いただく場合がありますので、ホームページをご確認いただくか、徳島県赤十字血液センターまでお問い合わせください。

●お問い合わせ先 徳島県赤十字血液センター 献血推進課
TEL.0120-688-994 (9:00～17:30)



徳島県における10代～30代の献血者数



項目 \ 献血の種類	成分献血		全血献血	
	血しょう成分献血	血小板成分献血	200mL 献血	400mL 献血
1 回献血量	600mL 以下 (循環血液量の12%)		200mL	400mL
年 齢	18歳～69歳	男性:18～69歳	16歳～69歳	男性:17～69歳
		女性:18～54歳		女性:18～69歳
体 重	男性45kg以上・女性40kg以上			男女とも50kg以上
最高血圧	90mmHg以上 180mmHg未満			
最低血圧	50mmHg以上 110mmHg未満			
脈 拍	40回/分以上 100回/分以下			
体 温	37.5℃未満			

※65歳以上の献血については、献血される方の健康を考え、60～64歳の間に献血経験がある方に限ります。

献血のご協力はコチラ

●献血ルーム アミコのご案内

●受付時間: 9:30～13:00
14:00～17:00
(成分献血は16:00まで)

※アミコ専門店街の開店前及び休館時は、3Fシビックセンター広場入口か、1F郵便局横入口をご利用ください。

●定休日: 毎月第1・3火曜日

※悪天候時には変更する場合がありますので、お問い合わせください。

●住所: 徳島市元町1-24
アミコビル3F (JR徳島駅前)

●お問い合わせ: 0120-688-950

●右の①～④の駐車場をご利用ください。
※献血に要した時間分のサービス券をご用意しております。



献血中もTV視聴



Free-WiFi あります



充実のフリードリンク

●献血バス

●徳島県内を巡回中の献血バスで、ご協力いただけます。
(400mL献血のみ)

●電話番号: 0120-688-994

●献血バスの日程は、徳島県赤十字血液センターホームページでご案内しています。



献血バスの運行スケジュールはホームページ内のこちらで確認できます。

●日本赤十字社徳島県支部管内の赤十字施設をご案内します●

日本赤十字社徳島県支部事務局 徳島市庄町3丁目12-1 TEL.088-631-6000
徳島赤十字ひのみね総合療育センター 小松島市中田町字新開4-1 TEL.0885-32-0903
徳島赤十字障がい者支援施設ひのみね 小松島市中田町字新開4-1 TEL.0885-32-0903

徳島赤十字乳児院 小松島市中田町字新開2-2 TEL.0885-32-0555
徳島赤十字病院 小松島市小松島町字井利ノ口103番 TEL.0885-32-2555
徳島県赤十字血液センター 徳島市庄町3丁目12-1 TEL.088-631-3200